

株式会社フジケン

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年7月1日～ 2024 年6月30日)



発行日: 2024年8月9日
改訂日: 2024年10月4日

目 次

	項 目	ページ
1	あいさつ	1
2	環境経営方針	1
3	組織の概要	2
4	事業・製品の紹介	3
5	環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
6	主な環境負荷の実績	5
7	環境経営目標及びその実績	6
8	環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の環境経営計画	7
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	11
10	緊急事態対応訓練	12
11	代表者による全体の評価と見直し・指示	13
12	これまでの環境活動の紹介	13

□1.ごあいさつ

株式会社フジケン は建設業として1996年創業して以来、主に地元のインフラを支える公共工事を施工してきました。
2003年に産業廃棄物処分業(木くずの中間処理)も開始し、建設と産廃の2事業を通じて、地域の防災・安全と地球環境問題に取り組んでいます。

昨今の異常気象によるインフラ破壊、高度経済成長期のインフラ老朽化、更にはコロナ禍と社会問題は山積みですが、当社の強みであるICT(ドローン、3D設計・図面)を活用して、効率的な施工と環境負荷低減に積極的に取り組んでまいります。

□2.環境経営方針

環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社フジケン は『播磨の自然と共に生きる』をモットーに、建設業として建設廃材を出すだけでなく、リサイクル事業で環境保全・産業廃棄物の有効利用に取り組んでいます。又、大気汚染等による近年の異常気象に対する治山対策だけでなく、そこから搬出される産業廃棄物(木くず)を処理し、リサイクル商品として生まれ変わったチップを農業等に取り入れて、低炭素社会の構築に貢献し、異常気象の根源とされる地球温暖化抑制に努めています。

全従業員が環境保全の重要性を認識し、自然を大切にしながら環境負荷の低減に努めます。
併せて、環境経営システムを維持し、継続的に改善していきます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
(電気、ガソリン、軽油、灯油)
3. 廃棄物の発生抑制に努めます。
4. 建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
5. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
6. 環境に配慮した処分に取り組みます。
7. 環境に配慮した施工技術を提案し、施工を推進します。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
(地元地域のクリーン作戦・産廃工場沿道の除草)

制定日：2017年6月10日

改定日：2024年10月4日

株式会社フジケン

代表取締役 藤居 進

□3.組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社フジケン
代表取締役社長 藤居 進
- (2) 所在地
本社・資材置場 兵庫県神崎郡市川町下瀬加1436番地
市川クリーンセンター 兵庫県神崎郡市川町下瀬加字宮西1864-11
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
責任者 専務取締役 藤居 正樹 TEL:0790-27-0365
担当者 工務部 本田 力也 FAX:0790-27-0385
担当者 産廃部 松下 勝 HP:http://kk-fujiken.co.jp
Email:fujiken.ichikawa@nifty.com
- (4) 事業内容
特定建設業:土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業
兵庫県知事許可 第458390号 令和2年11月16日許可
有効期限 令和7年11月30日
一般建設業:建築工事業、造園工事業、管工事業
兵庫県知事許可 第458390号 令和2年11月16日許可
有効期限 令和7年11月30日
産業廃棄物収集運搬業(積替え・保管を含まない)
兵庫県知事許可 第02802049294号 令和4年8月4日許可
有効期限 令和9年8月3日
許可品目:木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
産業廃棄物処分業 中間処理(破碎)
兵庫県知事許可 第02822049294号 令和5年4月21日許可
有効期限 令和10年4月20日
許可品目:木くず
産業廃棄物処分業(一般廃棄物)
【産業廃棄物処理施設において処理する一般廃棄物に係る届出】 令和5年2月22日届出
有効期限 令和10年4月20日(産業廃棄物処分業許可に準ずる)
許可品目:木くず
- (5) 設立:平成8年2月27日
- (6) 資本金:4,000万円

(7) 事業の規模

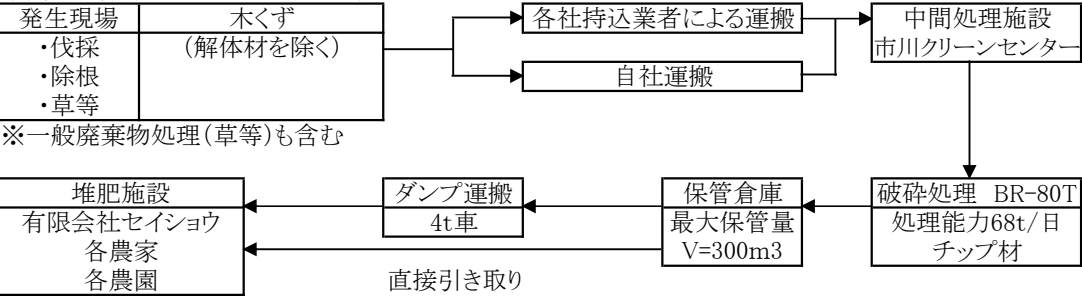
売上高(建設業)	44,167 万円	(2023年度)	収集運搬量	0 t	(2023年度)
売上高(産廃部)	1,600 万円	(2023年度)	中間処理量	1,333 t	(2023年度)

	本社・資材置場	市川クリーンセンター	資材置場	駐車場	合計
従業員	名	8 名	1 名	0 名	9 名
延べ床面積	m ²	84 m ²	5,560 m ²	1,000 m ²	150 m ²
					6,794 m ²

産業廃棄物収集運搬用車両・重機

区分	名称	台数	型式・性能
運搬車両	4tダンプ	1	
	3tダンプ	2	
重機	バックホウ	1	0.7m ³
	バックホウ	3	0.45m ³
	バックホウ	2	0.25m ³
	バックホウ	2	0.14m ³
	バックホウ	4	0.1m ³
	ホイールローダー	1	0.4m ³

中間処理業(市川クリーンセンター)フロー図



- (8) 事業年度 7 月 1 日 ~ 6 月 30 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社フジケン
 対象事業所: 本社・資材置場
 市川クリーンセンター

対象外: なし

活動: 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、建築工事業、造園工事業、管工事業
 産業廃棄物中間処理業

□4.事業・製品の紹介

【建設部】

三谷池ため池改修工事(その2)

竣工: 令和6年5月

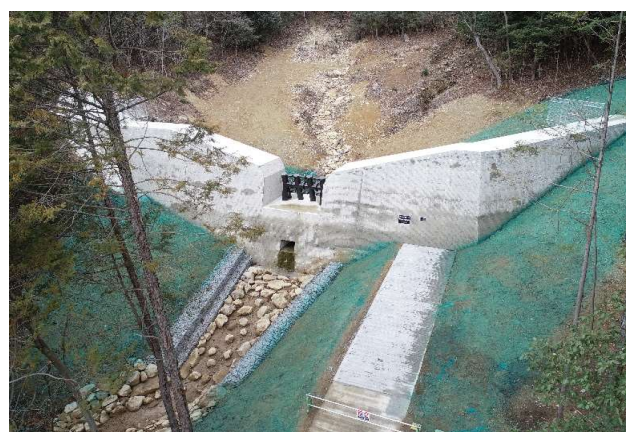
堤長 L=81.1m, 張ブロック工 A=1099m²



(砂) 高畑川砂防堰堤工事

竣工: 令和6年2月

堰堤工 H=7.5m, L=46.0m 管理用通路工 L=246.0m



【産廃部】

(株)フジケン 市川クリーンセンター工程図

(所在地) 兵庫県神崎郡市川町下瀬加字宮西式1864番11

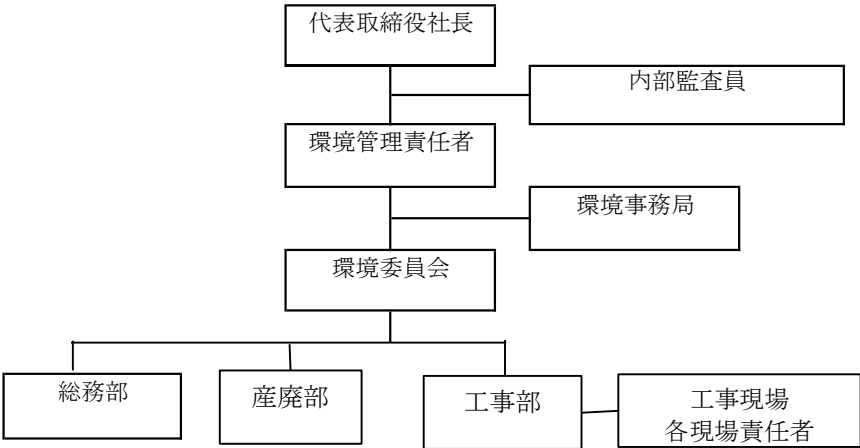


リサイクル材(木チップ)

- ・チップ材は100%有機材です。
- ・チップ材の最大寸法は50mm程度です。
- ・有機肥料、土壌改良材、植栽のマルチング材等に最適なチップ材です。



□5.環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



□6.主な環境負荷の実績

(基準年度)

電力(本社)
基準年度

項 目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	235,980	169,304	150,384	136,828
電力	kWh	19,737	12,968	10,468	8,775
	kg-CO2	6,276	4,124	3,329	2,790
(太陽光発電による自社使用)	kWh	(2,310)	(6,865)	(6,536)	(8,310)
電力(本社)	kWh	7,205	1,833	1,958	1,884
	kg-CO2	2,291	583	623	599
電力(建設部)	kWh	8,815	1,214	859	354
	kg-CO2	2,803	386	273	113
電力(産廃部)	kWh	9,089	9,921	7,651	6,537
	kg-CO2	2,890	3,155	2,433	2,079
ガソリン	ℓ	9,386	7,506	7,549	8,021
	kg-CO2	21,791	17,426	17,526	18,622
ガソリン(本社)	ℓ	2,149	1,528	1,983	1,702
	kg-CO2	4,989	3,547	4,604	3,951
ガソリン(建設部)	ℓ	5,328	4,007	3,654	4,456
	kg-CO2	12,369	9,303	8,484	10,345
ガソリン(産廃部)	ℓ	1,909	1,971	1,912	1,864
	kg-CO2	4,433	4,575	4,439	4,327
軽油	ℓ	79,025	56,094	49,166	43,798
	kg-CO2	207,389	147,209	129,028	114,941
軽油(本社)	ℓ	0	0	0	0
	kg-CO2	0	0	0	0
軽油(建設部)	ℓ	49,505	20,328	31,684	30,462
	kg-CO2	129,918	53,347	83,150	79,943
軽油(産廃部)	ℓ	29,520	35,766	17,482	13,336
	kg-CO2	77,471	93,862	45,879	34,998
灯油(産廃部)	ℓ	210	215	200	190
	kg-CO2	523	536	498	473
廃棄物排出量	t	789.55	729.25	389.21	438.98
一般廃棄物排出量	t	0.24	0.23	0.23	0.23
産業廃棄物排出量	t	789.37	729.08	389.04	438.76
水使用量	m ³	234	236	227	239
二酸化炭素排出係数	kg-CO2/kWh	0.318	0.318	0.318	0.318

※2020年度の二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO2/kWh 関西電力(株)の2019年度実績の調整後排出係数

※負荷の実績は工事現場を含む

※化学物質は使用していません。

※()内太陽光発電による自社使用量は、二酸化炭素排出量ゼロです。

※LPG(本社)使用量は微量のため、及び灯油(全社・本社・建設部)は本社・建設部は使用量ゼロのため、2022年度より項目を削除します。

※電力による二酸化炭素削減(本社)は、太陽光発電の比較を行うため2021年度を基準年度とする。

□7.環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	基準値	2023年度		評価	目標に対する達成率	2024年度	2025年度
		2020年度 電力(本社)は2021年度 (基準年度)	上段: 下段:	通期 上半期 (実績)				
		(基準年度)	(目標)	(実績)				
電力による二酸化炭素削減(全体)	kg-CO ₂	6,276	6,088	2,790	○		6,025	5,963
		3,816	3,702	1,535	○			
	基準年度比		97%	44%		218%	96%	95%
電力による二酸化炭素削減(本社)	kg-CO ₂	583	565	599	×		560	554
		294	285	281	○			
	基準年度比		97%	103%		94%	96%	95%
電力による二酸化炭素削減(建設部)	kg-CO ₂	2,803	2,719	113	○		2,691	2,663
		1,989	1,930	112	○			
	基準年度比		97%	4%		2415%	96%	95%
電力による二酸化炭素削減(産廃部)	kg-CO ₂	2,890	2,804	2,079	○		2,775	2,746
		1,533	1,487	1,142	○			
	基準年度比		97%	75%		135%	96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減(全体)	kg-CO ₂	229,181	222,305	133,565	○		220,014	217,722
		132,906	128,919	78,180	○			
	基準年度比		97%	58%		166%	96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減(本社)	kg-CO ₂	4,989	4,840	3,951	○		4,790	4,740
		3,001	2,911	2,063	○			
	基準年度比		97%	79%		123%	96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減(建設部)	kg-CO ₂	142,288	138,019	90,289	○		136,596	135,173
		76,977	74,667	51,717	○			
	基準年度比		97%	63%		153%	96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減(産廃部)	kg-CO ₂	4,433	4,300	4,327	×		4,256	4,211
		2,307	2,238	2,197	○			
	基準年度比		97%	98%		99%	96%	95%
破碎機燃料による二酸化炭素削減(産廃部)	kg-CO ₂	77,471	75,146	34,998	○		74,372	73,597
		50,621	49,102	22,202	○			
	基準年度比		97%	45%		215%	96%	95%
処理量当りの破碎機燃料	ℓ/t	13.2	12.9	10.0	○		12.7	12.5
		15.0	14.7	10.4	○			
	基準年度比		97%	76%		129%	96%	95%
灯油による二酸化炭素削減(産廃部)	kg-CO ₂	523	507	473	○		502	497
		149	145	150	×			
	基準年度比		97%	90%		107%	96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	235,980	228,901	136,828		167%	226,541	224,181
一般廃棄物の削減(可燃ごみのみ)	kg	178	173	166	○		171	169
		101	98	94	○			
	基準年度比		97%	93%		104%	96%	95%
建設副産物の再資源化率の向上	%	95.8	97.0	99.0 (373t/389t)	○	102.0%	98.0	98.0
水道水の削減(本社)	m ³	214	208	222	×		205	203
		114	111	111	×			
	基準年度比		97%	104%		94%	96%	95%
水道水の削減(産廃部)	m ³	20	19	17	○		19	19
		13	13	8	○			
	基準年度比		97%	85%		114%	96%	95%
環境に配慮した工事の推進	件数	4	4	4	○		4	4
	基準年度比		100%	100%		100%		

※化学物質を使用していないため、環境経営目標に設定していません。

※LPG(本社)使用量は微量のため、及び灯油(全社・本社・建設部)は本社・建設部は使用量ゼロのため、2022年度より項目を削除します。

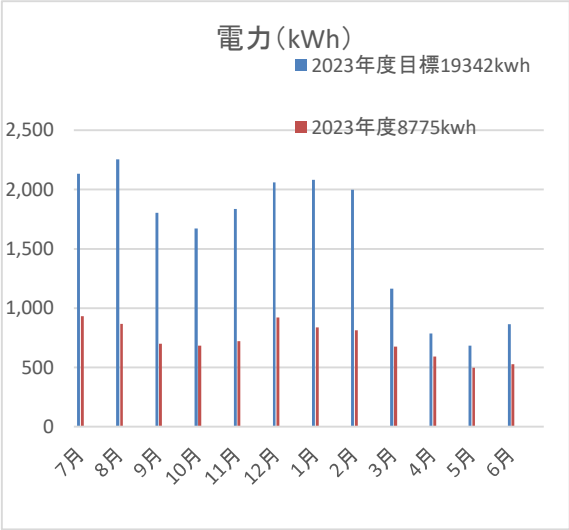
※電力による二酸化炭素削減(本社)は、太陽光発電の比較を行うため2021年度を基準年度とする。

□8.環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(全体)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	本社は冬場の太陽光発電稼働が低調で目標未達でしたが、建設部の現場事務所稼働が少なかったことと、産廃部の水銀灯をLEDに替えたことにより、二酸化炭素排出量を基準年度より-55.5%削減できました。目標に対する達成率は218.2%で目標達成出来ました。今後も空調温度の適正化を継続していきます。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・空調フィルターの清掃	○	
・不要照明の消灯	○	



取組紹介欄

- ・清掃業者によるエアコン清掃
- ・空調温度の適正化(冷房28℃暖房20℃)
- ・不要照明の消灯

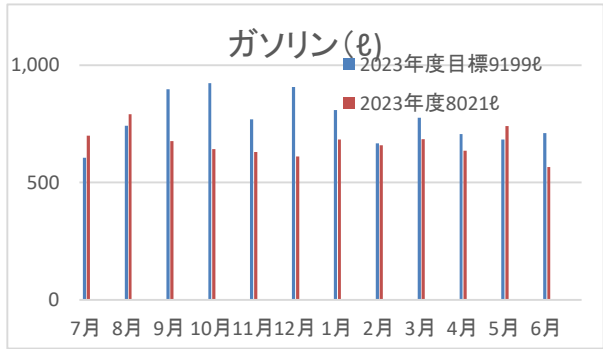
本社太陽光パネル写真



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	2,132	2,255	1,804	1,672	1,836	2,061	2,083	1,998	1,165	786	685	864	19,342
2023年度	931	868	700	684	721	923	839	815	675	594	497	528	8,775

※電力(本社)の基準年度は2021年度に変更

自動車燃料による二酸化炭素削減(全体)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	本社及び建設部は、受注工事の施工地域や工種によりガソリン・軽油の使用量が変わりますが、年間を通じて、目標を達成することが出来ました。産廃部は、基準年度の二酸化炭素排出量から-2.4%削減できましたが、目標には僅かに届かず達成率は99.4%でした。 全体として基準年度の二酸化炭素排出量から-41.7%削減でき、目標に対する達成率も166.4%で目標達成できました。 今後もアイドリングストップ等の基本事項を継続し、二酸化炭素排出量削減に取組みます。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで移動	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	
	○	
破碎機燃料による二酸化炭素削減(産廃部)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	基準年度の軽油使用量を-54.8%削減できました。 軽油/処理量の原単位は、基準年度13.2(目標値12.8)に対し今期10.0となり処理効率が良くなりました。 年間800t契約の大口顧客との契約終了につき処理量が減少しましたが、作業効率が向上しアイドリングストップを徹底したことで、処理効率が向上しました。 今後も作業効率を意識し、破碎機燃料による二酸化炭素排出量削減に努めます。
・アイドリングストップ	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	
・重機の空ぶかし禁止	○	
	○	

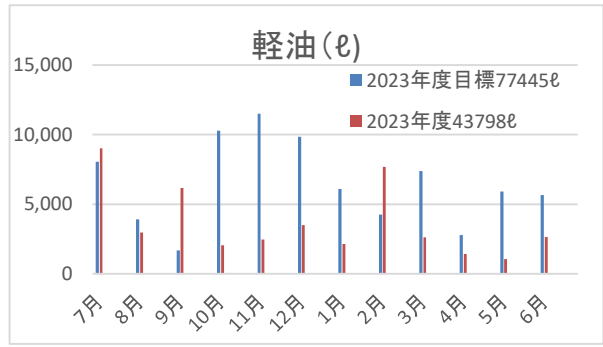


取組紹介欄

- ・低燃費車購入



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	606	742	898	923	769	907	809	667	777	706	683	712	9,199
2023年度	701	791	676	642	630	612	683	659	685	636	740	566	8,021



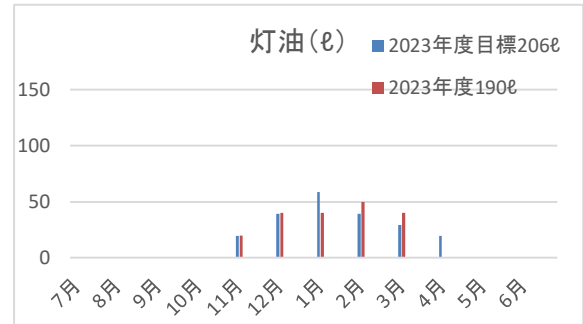
取組紹介欄

- ・重機点検訓練



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	8,062	3,912	1,697	10,293	11,515	9,865	6,088	4,259	7,382	2,803	5,903	5,665	77,445
2023年度	9,031	2,960	6,184	2,068	2,476	3,487	2,143	7,692	2,631	1,423	1,057	2,646	43,798

灯油による二酸化炭素削減(産廃部)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	冬季の暖房用灯油は、使用時間の制限や不在時点火の抑制をすることで基準年度の二酸化炭素排出量から-9.6%、目標に対する達成率は107.2%でした。 今後も継続して効率的に暖房を使用します。
・空調温度の適正化(暖房20℃)	○	
・部屋開放の禁止	○	
・不在時点火の抑制	○	

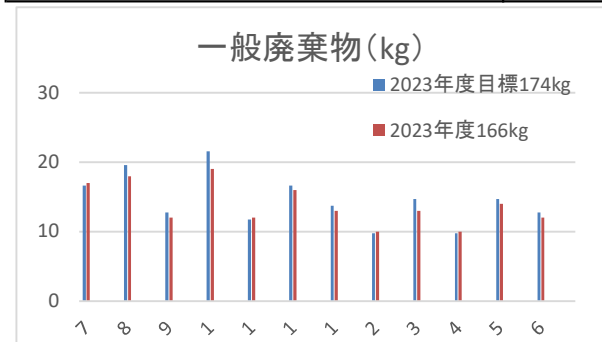


取組紹介欄

- ・空調温度の適正化(暖房20℃)
- ・部屋開放の禁止
- ・不在時点火の抑制

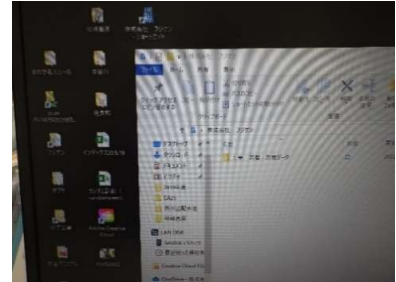
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	0	0	0	0	19	39	59	39	29	20	0	0	206
2023年度	0	0	0	0	20	40	40	50	40	0	0	0	190

一般廃棄物の削減(可燃ごみのみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	基準年度の一般廃棄物から-6.7%削減できました。目標に対する達成率は104.2%で目標達成できました。 今後もデータの一元管理を通じて、コピー用紙使用削減に努めます。
・分別の徹底	○	
・ミスコピーの防止	○	
・裏紙の活用	○	



取組紹介欄

- ・共有フォルダで印刷量削減(OneDrive)



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	17	20	13	22	12	17	14	10	15	10	15	13	174
2023年度	17	18	12	19	12	16	13	10	13	10	14	12	166

建設副産物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	解体工事等の廃棄物処分量が多い工種が多かったですが、再資源化率目標値97%に対し99%と目標達成出来ました。 今後も仮設材の再利用を促進し、分別の徹底をすることで混合廃棄物処分量の削減に努めていきます。
・分別の徹底	△	
・仮設資材の再利用推進	○	

敷鉄板再利用



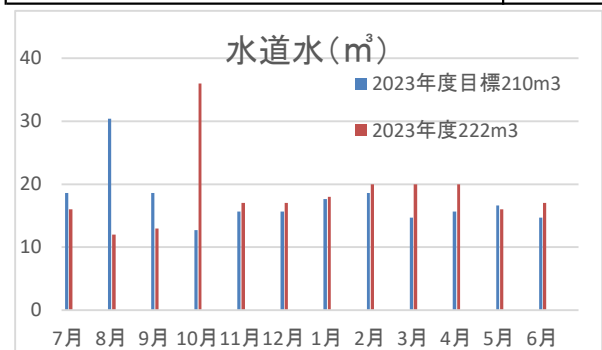
鋼管再利用



鋼管再利用



水道水の削減(本社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	10月に本社の水道水を工事現場で使用(コンクリート打設時のレイタンス処理用水)したため、基準年度の水使用量から+3.7%増え、目標に対する達成率も93.7%と未達でした。 節水意識を高め、蛇口の閉め忘れに注意することで、水道水使用量削減に努めます。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・清掃時、手洗い時の節水	○	
・植物への水やり時に蛇口の閉め忘れに注意する	△	



取組紹介欄

- ・井戸水揚水ポンプ



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年間
2023年度目標	19	30	19	13	16	16	18	19	15	16	17	15	210
2023年度	16	12	13	36	17	17	18	20	20	20	16	17	222

環境に配慮した工事の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・工事の効率化 (ICTの活用)	○	ICT建機の使用範囲が広がり(小規模・多工種)、従来の重機作業時間から約30%削減することができました。 今期の目標4件に対し、実施は4件で目標達成出来ました。 今後も、仮設材の再利用やICT施工を通じて、環境に配慮した工事の推進に努めます。
・作業ミスの防止	○	
・顧客クレーム削減	○	
・廃棄物の再資源化の推進(別項目で実施)	○	

取組紹介欄

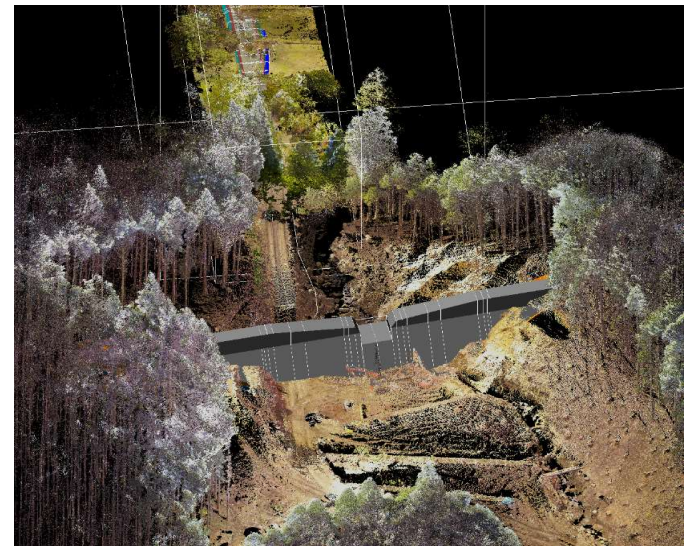
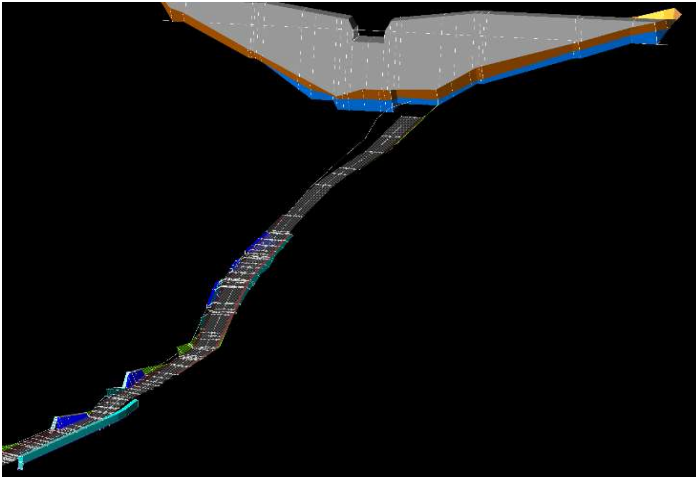
レーザースキャナー



レーザースキャナーによる起工測量



3次元設計図



ドローンによる空撮



□9.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・処理計画・交付状況等報告書の提出	遵守
兵庫県(姫路市)産業廃棄物不適切処理防止条例	産業廃棄物保管の届出、建設資材廃棄物の産業廃棄物処分業者への引き渡し完了報告	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源化利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
騒音規制法 兵庫県・姫路市公害防止条例	特定建設作業の届出、規制基準(規制値85dB)の遵守	遵守
振動規制法 兵庫県・姫路市公害防止条例	特定建設作業の届出、規制基準(規制値75dB)の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音・低振動型 建設機械普及促進規定	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
排出ガス対策型 建設機械普及促進規定	低排出ガス対策型建設機械の使用の普及・促進	遵守
浄化槽法	浄化槽の設置の届出、保守点検、清掃、水質定期検査の実施	遵守
フロン排出抑制法	・建物体解体時に業務用エアコン・冷凍冷蔵機器の有無を事前確認し、結果を書面で発注者に説明。 ・エアコンが整備されている重機の簡易点検(3ヶ月に1回)。	遵守
消防法	(防火対象物)防火管理者の届出、消防計画の作成、避難訓練の実施、 消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持 (危険物取扱所)設置許可、技術基準の遵守、危険物保安監督者の届出、 定期検査の実施と記録の保存	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。
 なお、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

□10.緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023/12/1	■実施場所: 工事現場(福崎町田口)
■参加者: 4名	■実施内容: 通報訓練、消火訓練、避難訓練
	■手順書名: 事務所火災対応手順書(様式11-02)
■評価: 高畑川砂防堰堤工事の工事現場で、消火器を用いた消火訓練を実施しました。 実際に消火器を使用して、臨場感のある訓練が行えました。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし

■実施状況の様子



緊急事態の想定： 油流出事故及び土石流災害の発生	
■実施日： 2024/6/7	■実施場所: 市川クリーンセンター(産廃工場)
■参加者: 7名	■実施内容: 避難訓練
	■手順書名: 建設現場の重大事故対応手順書(様式11-01)
■評価: 市川クリーンセンター(産廃工場)において、油流出事故を想定した流出油除去訓練及び土石流災害を想定した避難訓練を行いました。 市川クリーンセンターから避難場所(本社)まで距離があり、避難場所到着までに5分程度かかることが分かりました。 また、各工事現場においても土石流対策避難訓練を実施しました。 実際の災害時は、避難場所まで時間がかかることを念頭において、迅速に避難することを期待します。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし

■実施状況の様子

市川クリーンセンター(産廃工場)における流出油除去訓練及び避難訓練状況



吹上谷川砂防堰堤工事における避難訓練状況



□11.代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年8月9日
代表取締役 藤居 進

当社の二酸化炭素排出量の最大である建設部の重機・ダンプトラックで使用する軽油については、基準年度比-41.7%と大きく使用量を削減することができました。また目標に対する達成率166.4%と目標達成出来ました。受注工事の工種により大きく軽油使用量は変動しますが、空気圧・オイルの点検等、基本的なことは継続して取り組み、当社の強みであるICT技術(ドローン、3D設計・図面)を幅広く活用することで低燃費施工を拡大させていきます。

従来は小規模な工事現場や多様な工種で杭ナビシヨベル(トータルステーション)を用いてマシンガイダンスを搭載したバックホウを使用することで、作業効率向上と軽油使用量削減に努めてきましたが、来期よりマシンコントロールを搭載したバックホウを導入し運転手の練度に関わらず作業効率が向上することを期待します。またエアロボマーカードローンを使用した3次元起工測量を導入することで、測量効率向上を目指します。

2番目に二酸化炭素排出量の多い産廃部の重機・破砕機で使用する軽油使用量については、大口顧客の契約切れにより受入量が減り基準年度比-54.8%と軽油使用量を削減することができました。【軽油使用量/産廃処理量】の原単位で比較しても、目標値12.8に対して10.0で目標に対する達成率は133%となり、目標達成出来ました。効率の良い重機稼働を心掛け、処理効率を向上させたことにより処理量減少-40.5%に対して、軽油使用量-54.8%となり質的にも量的にも改善できました。今後も、更に作業効率を向上させ、重機の稼働時間を減らすことで二酸化炭素削減に努めるよう指示しました。

電力による二酸化炭素排出量削減に関しては、全体として基準年度比-55.5%と大幅に二酸化炭素排出量を削減することができました。目標に対する達成率は218.2%で目標達成できました。

※電力(本社)は2021年度を基準年度に設定。(太陽光発電システム1年間稼働)

まだまだ改善点は多いですが、引き続き高い意識を持ってできることを1つずつ取り組んでいきます。

今後も環境経営を通じ事業を発展させ、地域の雇用及び安全を守り、防災拠点として存続していくことで、地域経済と環境活動に貢献していきます。

マシンコントロール(MC): 建機を半自動で操縦できる機能で、経験が浅いオペレーターでも操縦できる。

マシンガイダンス(MG): オペレーターをガイダンスでサポートする機能。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□12.これまでの環境活動の紹介

CS奉仕活動実施状況



【三谷池地区ため池改修工事】

8月の盆前と秋祭り前に現場付近の町道及び県道を1kmにわたり草刈り・道路清掃を行いました。